

「今月の1枚」



(写真1)



(写真2)

ヨコグラノキ(*Berchemiella berchemiaefolia*)

橙色に色づいたヨコグラノキの果実(写真1)。8月の末でしたが、果実の多くはすでに落下し、林床では赤く熟した果実を見かけました。

ヨコグラノキは高知県の横倉山で牧野富太郎博士によって発見され、命名されました。当初は横倉山特産と考えられていましたが、その後、宮城県を北限として本州、四国、九州の各地に点在しているのが認められています。海外では朝鮮半島南部や中国にも分布しています。

本種は石灰岩地帯などにまれに生えている落葉樹の小高木で、原色日本植物図鑑木本編1(保育社)にはクロウメモドキ科クマヤナギ属の一種とされていますが、托葉の先が離れていることなどから別の属のヨコグラノキ属の一属一種の樹木と考えられています。葉は互生しますが、片側に二枚ずつつき、同じクロウメモドキ科のクマヤナギやネコノチチと同じようなくっきりとした側脈(写真2)を持っています。

(写真・文章：加茂 皓一，2006年8月26日 高知県越知町横倉山で撮影)

(No.145 2006.8.29 掲載)